

指導資料全般・デジタル教科書については、
こちらのパンフレットにまとめました。

指導書

課題ノート

デジタル教科書

指導一覧・周辺教材



文国 708 文学国語



論国 710 論理国語



古探 715 古典探究(古文編)



古探 716 古典探究(漢文編)

目次

◎ 教師用指導資料

『学習指導の研究』のご案内

2

◎ 準拠課題ノートのご案内

34

◎ デジタル教科書のご案内

38

◎ 指導資料・教材一覧

44

内容解説資料

26
令和八年度用

筑摩書房版

国語教科書

指導資料・デジタル教科書



現国 143-901 ちくま 現代の国語



言文 143-901 ちくま 言語文化



現国 143-902 現代の国語 改訂版



言文 143-902 言語文化 改訂版

『学習指導の研究』のぐい案内

教師用指導資料

目次

◎ 単元の解説	3
◎ 教材のねらい	4
◎ 学習指導の展開例	6
◎ 出典／作者解説／作品解説	8
◎ 要旨／主題	10
◎ 意味段落の要旨	12
◎ 全体の構成図	13
◎ 叙述と注解／学習のポイント／発問例／ 脚問の解答例	14
◎ キーワード	16
◎ 作品解説	17
◎ 参考資料	18
◎ 参考文献	19
◎ 「学習」の解説と解答例	20
◎ 品詞分解（古文）	22
◎ 総ルビ付き本文／現代語訳（古文）	23
◎ 総ルビ付き訓読／現代語訳／叙述と注解／ 発問例（漢文）	24
◎ 評価問題	26
◎ プリント集	28
◎ オンライン指導資料／漢文編集システム	30

特色1 具体的な授業の流れがイメージできるように
「学習指導の展開例」や「板書例」を例示、また「発問例」の
難易度なども示しました。

特色2 同じ学年を担当される先生方の間での「共通基盤」を示す
ガイドとなるように、「教材のねらい」で、指導のポイントを
コンパクトにまとめました。

特色3 評価問題例には、「基本」「標準」のほか、「発展」として、
教科書掲載の教材以外の文章も用意しました。

特色4 教科書掲載の「実践」の解説や、アクティブ・ラーニング例に
関する指導資料は、一冊にまとめました。

特色5 授業に役立つ資料やワークシート、評価例などを
「オンライン指導資料」のサイトからダウンロードできます。

◎ 単元の解説

教科書編集委員が、単元設定の意図と、教材採録の意図を解説しました。

単元の 解説

第6章

「根拠」から「主張」へ

単元のねらい

第6章では、ここまでの「読む」単元での学習を踏まえ、もう一段
読解力や思考力を深めるための文章を取り上げた。

すぐれた評論は、日頃あたりまえのこととして見過ごしていること
がらに目を向け、改めてその意味や意義を明らかにしてくれる。読み
手にとってそうした文章は、はじめはそれを論じる意味がピンとこ
ないかも知れないが、議論全体を理解できた時には自分の思考やその前
提が明晰になっているのを感じるはずである。

教材編集の意図

若林幹夫「魔術化する科学技術」は科学と魔術という、合理的観点
からは正反対に見えるものが、現代社会の中で結びついてしまう様
子が論じられる。「便利だが理解できない」ものを自在に駆使する今
の生徒の自己認識の中に、実際にこうした魔術的なイメージが存在す
るのか、またその問題点は何か、彼ら自身に良く考えさせたい。

野矢茂樹「未来は存在しない」で印象的なのは、単にその論理性だ
けではなく、自分自身の直感に反する結論を諸々として受け入れるの
ではない思考の粘り強さである。論理的に考え抜くとはどういうこと
かをユーモラスに描いたこの文章から、評論を読むことの意味と可能
性を感じてもらいたい。

岩井克人「マルジャナの知恵」は資本主義における、差異が利潤
を生み出すという基本原理をわかりやすく説いた文章である。筆者の

魔術化する科学技術／未来は存在しない／
マルジャナの知恵

指摘する情報の商品化とは、まさに生徒を取り囲む現代の社会状況そ
のものである。

この単元で育成する資質・能力

【知識・技能】

（1）言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で
使うこと。

オ 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解
すること。

（2）情報の扱い方に関する事項

ア 主張や論拠など情報と情報の関係について理解すること。

オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深
め使うこと。

（3）我が国の言語文化に関する事項

ア 実社会との関わりをかんがえるための読書の意義と効用につい
て理解をふかめること。

【思考力・判断力・表現力等】C 読むこと

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて
叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。

資質・能力

学習指導要領に対応した各単元の「資質・能力」を掲載しています。

第6章

魔術化する科学技術

若林幹夫

教科書 128
134 頁

2

教材のねらい

社会学者による科学論である。価値中立なものと考えられてきた科学の知が、技術と結びついた時にどのような影響を社会に及ぼすかを、科学以前の知・技術と対比しながら論ずる本格的な評論である。

各段落の冒頭に注目させ、接続詞の働きを確認しながら段落相互の関係を捉えさせるとともに、対比を正確におさえさせることで、論の構造を理解させる。

①段落相互の関係を整理して、論の構造を理解させる。

②科学的な知の特徴を整理させた上で、魔術や呪術と近代科学技術を対比しながら、科学技術の発展が社会にもたらした影響について理解させる。

③現代社会における科学技術の問題点について考えをまとめさせる。

◎授業の要所

「魔術化する科学技術」は、原始や古代の人類にとっての「技術」であった呪術や魔術と、現代人にとっての「科学技術」を対比することで、科学技術の性質を明らかにし、それが現代社会にもたらす問題を指摘した文章である。対比や具体例を用いつつ、段階を踏みながら確実に論を進めていく過程を、叙述を丁寧に追うことで理解させたい。

◎主題

理論的な仮説に過ぎない科学的な知が「技術」と結びつき、合

授業の要所

教材の指導のポイントを簡潔に示しました。「何」が書かれた文章なのか、を示しています。

理性を高めることで、私たちの社会は明晰で透明な理解可能性を手に入れたように見える。しかし実際には、科学技術の発展と高度化は、不透明で理解不可能な領域を生み出している。科学技術を、魔術のように全てを理解可能にする絶対的なものとして捉えてはならない。

◎注目する表現

科学的な知は「無知」である。

▼だから、科学に対する私たちの常識的な理解にはいささか反するかもしれないが、科学的な知は、宗教や神話や魔術や呪術よりも「無知」なのだ。(一三〇・一〇)

着眼点 ここまでの叙述を丁寧に追わせることで、「科学的な知」とは理論的な仮説であり、実証的な手続きによって確認できることに限定された知であることを理解させる。その上で、世界図の具体例をもとに、神話・宗教・呪術的思考にもとづく知と対比しながら、科学的な知には、知りえないものがあるという意味で「無知」であることを理解させる。この科学の知についての認識が、後の論の展開を支える柱となっているので、確実におさえさせたい。

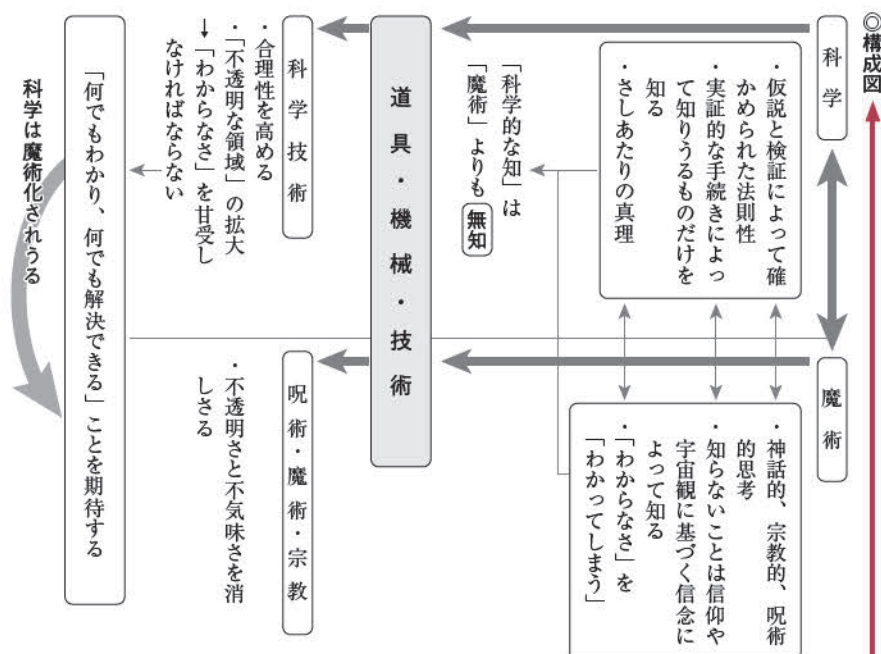
構成図

文章の構成を図示しています。

注目する表現

教材の中の注目すべき表現について一覧表で示しています。

魔術化する科学	科学技術が生み出す不透明で理解不可能な領域
▼そう、現代の社会で科学は魔術化されうるのである。(二三・九)	▼私たちの社会は科学技術によってこれまでのどんな社会よりも明晰で透明な理解可能性を手に入れたように見えるけれど、そのことによって同時に、これまでのどんな社会よりも巨大で強力な力とともにある不透明で理解不可能な領域を抱え込んだのだ。(一一・二)
着眼点 本論の題名も「魔術化する科学技術」であり、これが主張の部分となっている。一見すると矛盾するように思われる科学が魔術化されるという意味について、この前の段落の道具や機械や装置の具体例を踏まえて理解させる。科学技術を絶対視することがどのような問題を引き起こすかについても具体的に考えさせたい。	着眼点 科学的な知識が技術と結びつくことで現代社会にもたらしたものを、「技術としての呪術や魔術、宗教」がもたらしたものと対比させ、「不気味さ」と「合理性」をキーワードとして整理させる。科学技術の発展と高度化が世界を予測可能で操作可能なものにした一方で、「不透明で理解不可能な領域」を生み出す、という二つの側面をもつことを理解させる。



3 魔術化する科学技術

◎学習指導の展開例

各教材の「展開例」と、「指導目標」「学習活動」「指導上の留意点」及び「時間配分」を表形式でまとめました。

学習指導の展開例

展開例		導入	展開一	
指導目標		① 教材の話題に関心を持たせる。 ② 本文特有の言葉遣い、用語を理解させる。 ③ 意味段落に分け、全体の構成を把握させる。		① 道具と「科学」の関連を押さえる。
学習活動		① 「科学」的な理論で知っているものを挙げる。 ② 「科学」と「魔術」のちがいについて考える。 ③ 「魔術」「呪術」の思想的な特徴について理解する。	① 指名により音読する。 ② 全体を意味段落に分ける。 ③ ひとまず「科学」とはどのようなものを箇条書きでよいのでノートにまとめる。 ④ 「魔術」「呪術」の思想的な特徴をノートにまとめる。	① 前時限の確認をする ② 道具や機械の「科学」的側面を指摘する。
指導上の留意点		① 理科などの科目と連携を図りながら「科学的なるものを理解させる」。 ② 「科学」と「魔術」の対称性を示す。 ③ しかしながらこの二つが結論において収斂していくことを念頭に置いて指導する。	① 慣れないカタカナ語や人名（「リスク」「コスト」「ハイデガー」）に注意させる。 ② 三つの段落に分けさせる。作業をさせたあとに、指名で発表させる。 ③ 本文における「科学」の厳密な意味をしっかりとらえさせる。 ④ 本文掲載の世界図に注意を喚起させながら「魔術」「呪術」が世界を「理解する」方法をまとめさせる。	① 「科学」と「魔術」のちがいについて、指名により答えさせる。 ② 道具や機械が「合理的」であり、「科学」と結びついてきた点に留意させる。 ③ 「技術としての呪術や魔術」といった表現に注目させる。 ④ 「わからなさ」といった不透明性の上で道具の便利さを享受している日常生活を想起させる。
1時間目				1時間の場合
2時間目		1時間目		3時間の場合
2時間目		1時間目		4時間の場合

展開二		まとめ
② 科学が逆に「不気味さ」を抱え持つてしまうことを理解させる。 ③ 第一段を中心に、内容精読。 ④ 現代の「科学」的思考そのものが「魔術化」していることを理解させる。		① 「科学」と「魔術」の思考上の共通点を挙げる。 ② 日常生活における「科学」＝「魔術」的側面を具体的に挙げる。とからめて考える。
③ 原始や古代における「魔術」「呪術」の必要性を考える。 ④ 「科学」が理解不可能な領域を抱え込んでいく様子を理解する。		① 「科学」が「究極の真理」であるかのように受け止められている点を喚起させる。 ② インターネットや携帯電話への依存など、発展的に展開してもよい。
③ 技術としての呪術や魔術」といった表現に注目させる。 ④ 「わからなさ」といった不透明性の上で道具の便利さを享受している日常生活を想起させる。		
3時間目		
4時間目		3時間目

時間の配分

実際の授業時間に即した授業計画を立てやすいように3パターンの時間配分を示しました。それぞれの時間配分によって、どの展開までで区切るのかが、一目瞭然です。

出典

教材の出典と、教科書本文との異同を記しました。

出典

本文は若林幹夫「社会学入門一歩前」（NTT出版 二〇〇七年）によった。

同書はそのタイトル通り社会学の入門書として位置づけることが可能だが、学問的な入門書とはちがいで、日常的な切り口を話題とする点で、より実践的な入門書となっている。例えば「カリスマ」が誕生するのはいつだったのかのようなシステムがあるのか（第一〇章 スタリ、カリスマ、独裁者）、歌をうたうとはどのような行為なのか（第四章 うたっているのは誰？）といった身近な話題に本書では言及されている。大衆社会の欲望から個と社会を媒介とする身体に至るまで、本書がカバーする領域は入門書ながら広範囲だ。巻末には周到な「読書案内」も付せられており、本書を読み終えた読者が次のステップへ無理なく関心が深められるように配慮されている。そのセレクトションも丸山圭三郎、蓮實重彦、柄谷行人というようにユニーク極まりない。

全体は先述した章も含めて全一五章＋補。それを挟むように「はじめに」と「読書案内」が配されている。

教科書採録部分は本書の「第九章 科学から魔術へ？」のうち一〇九―一一九ページの抄録。教科書一二八頁の第一段にあたる本文冒頭の直前には「科学は宗教よりも、無知である」、第二段「道具や機械、技術は科学的な知識と結びつくことで、」（二三〇・一四）の直前には「透明と不気味さ」と、第三段「そうだとすれば私たちは、」（二三一・六）の直前には「魔術化する科学技術」の小見出しがそれぞれ付されていた。

なお本文第二段落と第三段落の間の文章を分量調節のため一部省略

著者解説

若林幹夫（わかばやし・みきお）

一九六二（昭和三七）年、東京都生まれ。社会学者。一九八六年、東京大学教養学部相関社会科学分科卒業。一九九〇年、東京大学大学院社会科学部博士後期課程中退。東京工業大学助手、筑波大学講師、同助教授、教授を経て、二〇〇五年より早稲田大学教育・総合科学学術院教授。博士（社会学）。

主に「熱い都市 冷たい都市」（弘文堂 一九九二年）といった都市論を出発点としながら徐々にメディア論へと研究の領域を広げている。「地図の想像力」（講談社選書メチエ 一九九五年）といった地図論、「郊外の社会学」（ちくま新書 二〇〇七年）といった郊外論、「都市のアレゴリー」（INAX出版 一九九九年）といった都市をめぐる様々な論考、「漱石のリアル―測量としての文学」（紀伊國屋書店 二〇〇二年）といった文学論などその視野は驚くほど広い。

記号論、構造主義などを援用しながら展開される都市論は歯切れがよく、結論部分ではしっかりとした構図に収まり理解もしやすい。特に「都市への／からの視線」（青弓社 二〇〇三年）は様々な発表媒体から収録された若林幹夫にとって最初の論文集にあたるのだが、書き下ろしのような一貫性を持たないこの本は逆に彼の様々な分析手法が提示されていて簡便ながら読み応えのある一冊となっている。

世代は異なりながらも吉見俊哉（一九五七（昭和三二）年生まれ）、北田曉大（一九七一（昭和四六）年生まれ）と共に現代の社会学を担

作品解説

古典に関しては、作品そのものについても詳しい解説を加えています。

作品解説

【奥の細道】は、元禄二（一六八九）年三月二十七日に江戸を立ち、八月下旬大垣に着くまでの、五か月余、道程約六百里（約二千四百キロ）に及ぶ旅の紀行文である。芭蕉は四十六歳、その人生観・自然観が深まり、句境も円熟していた時期のもので、推敲を重ねられた文章は、日本文学の流れの中での一巨峰を形づくる作品である。書名は、仙台の段の、「奥の細道の山ぎはに、十符の菅あり」の文に由来していることとされるが、むしろ「奥羽長途」の旅路を意味している。

芭蕉は、出発の年の閏一月下旬に窪田猿蓑（推定）にあてた書簡で「去年の旅より魚類有味口に払ひ捨て、一鉢境界、乞食の身こそたうとけれ、とうたひに佐し貴僧の跡もなつかしく、猶ことしのたびはやつしやつしてこまかぶる心がけにて御座候」と書いている。「貴僧」とは、世俗の名聞を嫌い狂気じみた行状の伝えられている平安時代の僧・増賀のことである。西行・増賀の姿が常に芭蕉の念頭にあった。古人の風雅に触れたいと、歌枕・名勝・旧跡をたずねて、芭蕉は旅立っていった。しかし、それらにめぐりあえた喜びが記された文章の間に、荒れはてた歌枕を嘆き、昔をしのぶすがさえないのを恨む文字に出あう。悠久の大自然と、小さく無常な人の命とその営みとを、思い比べつづける旅であつたろう。この旅の途次、「不易流行」の考えを述べはじめたというの、故なきことではない。旅によって、芭蕉は精神の自由を保ち句境を高めていったと言える。旅から旅へと

歩み続ける芭蕉の姿を、常に自己を変革してやまなかった彼の芸術そのものと見て間違いないだろう。そしてその旅とは、今に残る文字の語るものだけではないのである。洋の東西を問わず使われる「雨風にさらされた（weather-beaten）」という常套句は、芭蕉の旅にもあてはまるが、むしろこのことは、陽にやけた肌などを意味するだけにとどまるまい。

【奥の細道】成立の時期は定かでない。旅先での覚書などをもとに、元禄五（一六九二）年の後半から翌年にかけて執筆され、さらに推敲を重ねられたと思われる。定稿が成ったのは、元禄七（一六九四）年、帰省をかねて上方へ向かう最後の旅に出る年の春頃ではあるまいか。【奥の細道】の旅は、彼の紀行として最も長く、また、それをまとめた【奥の細道】は、質的にも芭蕉の紀行文の総決算というべきものである。

本文は、和文脈と漢文脈を織りまぜた、独特な和漢混淆の格調高い俳文である。俳文とは、俳諧的詩精神を散文に生かしたもので、簡潔で含蓄に富んだものである。また、【奥の細道】のように、文に句を配し、両者相まって俳諧の美的世界を作り出す場合が多い。修辞上の特色は、比喩や対句の使用、古歌や故事の引用など、多彩である。比喩にしても、直喩より隠喩を多用するなど、すぐれた文学的感覚にもとづく修辞である。語法上の特色として、

- ①自動詞・他動詞の混用
- ②終止形・連体形の混用
- ③係り結びの乱れ
- ④八行ワ行の二段活用動詞のヤ行化
- ⑤「はべり」「聞こゆ」の語義の変化

要旨

評論教材は要旨を示しました。生徒に要旨をまとめさせる際のポイントも併せて解説しました。

要旨

生徒に要旨をまとめさせる場合には以下の点に注意させたい。
本文は「科学」と「魔術」を対比して論じたものである。しかしそれらは二項対立的に導かれてはいるが、結論部においては「科学」そのものが「魔術」化した思考回路と結びつけられている。つまり二つは対立する思考回路に見えながらも、現代の「科学」を考えてみる場合、それは十分に「魔術」的である、というのが筆者の結論である。科学技術が生み出す「道具」の便利さを手にしながら、それがどのような仕組みで動いているのかを理解することのないわれわれ現代人はまさしく「魔術」の領域の住人なのである。

◆二〇〇字

科学とは実証性と反証可能性によって明証性を持つものと考えられる。それゆえ提示するものは否定可能な「さしあたる真理」に他ならない。これに対して神話的、宗教的、呪術的思考は科学的に「知りえないもの」に対しても信念と想像力によって「知ること」が可能となる。科学的知はこれを誤謬として退けようとするが、合理化した現代社会においてはその科学自身が実はすべてを説明できる魔術化した思考として存在しているのだ。
(一九七字)

◆二〇〇字

神話的、宗教的、呪術的思考は科学的に「知りえないもの」に対して信念によって「知ること」を可能にしたが、合理化した現代社会においては科学そのものが全てを説明できる魔術化した思考として存在している。
(九七字)

主題

小説教材は主題を示しました。
主題を読み取るポイントも併せて解説しました。

主題

小説の主題をまとめるとは、その作品世界の内実を捉えることである。その作品から抽象化したメッセージを読みとり、それをまとめるだけでは生徒にとってあまり意味がないことのように思われる。例えば本作品の主題を「人を殺すという行為を強いる戦争という極限状況の恐ろしさ」とまとめても、作品を理解したとは言えない。あくまで作品世界に沿った内容をまとめさせたい。

本作品の主題は「私」のあり方にある。そのためには、作品構造に着目させ、作中人物「私」と語り手「私」の意識を捉えさせる指導が必要である。

第一には作中人物「私」が戦場で若者を殺した理由とそのときの心情を確認させたい。「私」が手榴弾を若者に投げたのは、恐怖心によるものである。それは「私」が意識的に選択したものではなかった。それを踏まえ、第二には現在語っている「私」が自分の行為をどのように考えているのか、そしてなぜ語っているのかを捉えさせたい。自分を戦争の話を書き続けている作家であると語っていること、「今でもまだ、私はそれを整理し終えてはいない」と語っていることから、この行為が「私」の人生において重大な問題であり、ある意味ではその後の人生を決定づけたものであることがわかる。

そして、語り手の頭の中で生き続ける若者の姿を最後に語ることの意味も重要である。戦争という極限状況において人を殺すという行為をしてしまった、より正確にはさせられてしまった人間の姿とその後の苦しみをまとめさせたい。

◆二〇〇字

若い兵士を不必要に殺してしまった主人公の、自分でもその行為に及んだ理由が自分でもつかめない苦悩と、当時、自分が置かれていた状況やその時の心理状態を振り返ることによって、自分の意志を超えて、身体的、感覚的に振る舞うもう一人の自分を見つめようとする姿を描いている。また、もう一人の自分の正体を解き明かすことで、一度失った自分自身を取り戻そうとするが、それが果たせない不安と困惑をも描いている。
(一九四字)

◆一〇〇字

兵士を不必要に殺した主人公の、自分でもその理由がつかめない苦悩と、当時、自分が置かれていた状況や心理状態を振り返りながら、自分の意志を超えて、身体的、感覚的に振る舞うもう一人の自分を見つめる姿を描く。
(二〇〇字)

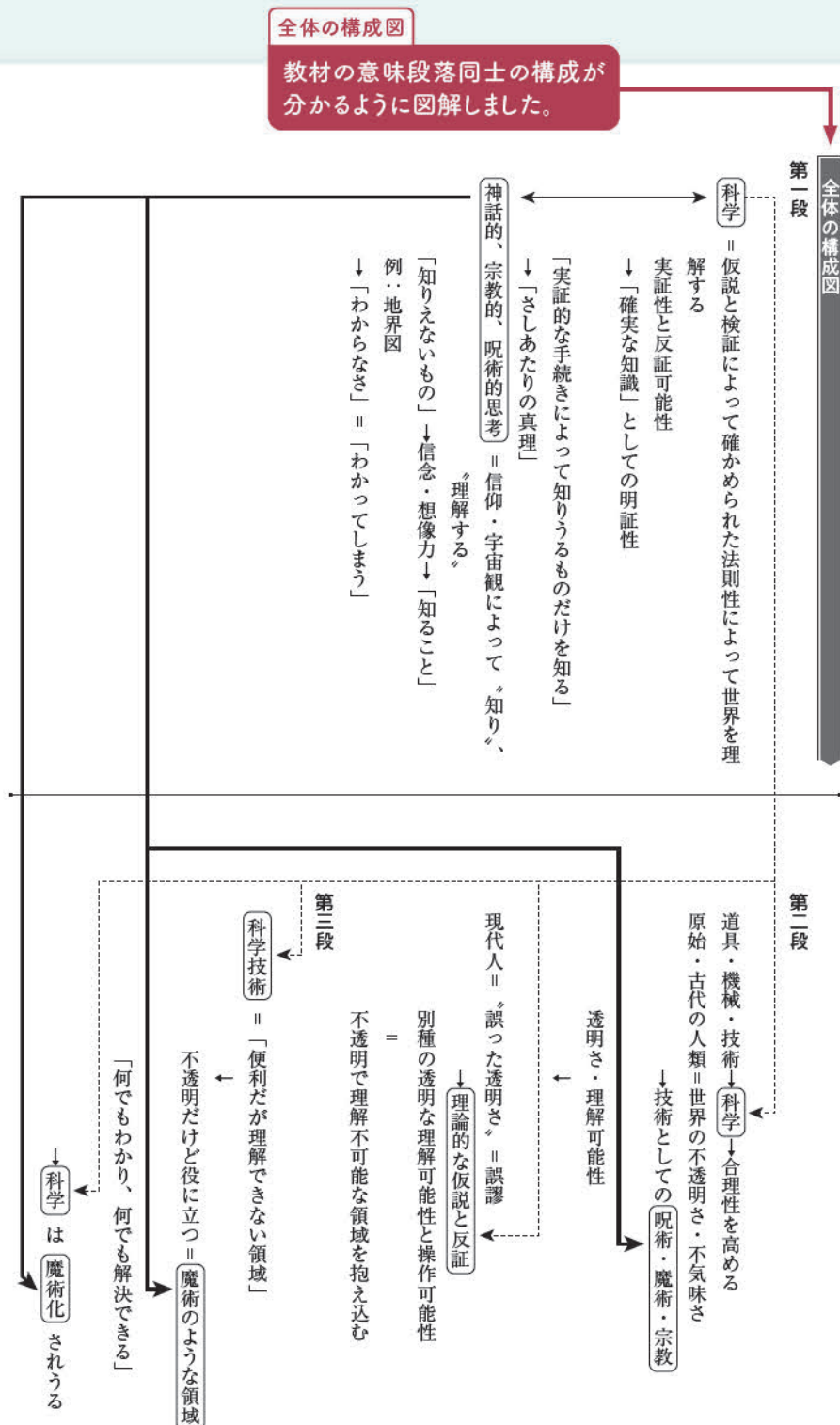
意味段落の要旨	ページ・行	段意
第一段	初め〜一三〇・一三（「わかつてしまふ」のである。）	科学と宗教 科学とは「実証的な手続きによって知りうるものだけを知る」という知のあり方であり、また「究極の真理」を指し示すことのない「さしあたりの真理」である。それに対して神話、宗教、呪術的思考は「知りえないもの」に対しても信念と想像力によって「知ること」ができてしまふ。それゆえ科学は宗教よりも無知なのである。
第二段	一三〇・一四（道具や機械）〜一三二・五（理解不可能な領域を抱え込んだのだ。）	道具や機械と不透明性 道具や機械や技術は科学と結びつき合理性を高めていく一方で、原始古代の人類にとって不透明な世界はそれを消し去る技術として魔術が必要とされていた。現代人にとっては魔術を科学技術に置き換え透明さを獲得していったが、その反面予想することが出来ない不透明性も同時に抱え込むことになった。
第三段	一三二・六（「そうだとすれば私たちは」）〜終わり	魔術化する科学技術 現代の私たちは透明な理解可能性を獲得しているとはいいがたく、現代の社会が個々の人々には見渡すことの出来ない不透明さの科学と技術の上に立っていることがわかる。このような中で人は「わからなさ」を受け入れられなくなり、「何でもわかり、何でも解決できる」といった魔術的な思考を科学の中に見いだすことになるのだ。

意味段落の要旨

意味段落の小見出しも併せて示しました。

◎全体の構成図

現代文教材は、各教材の構成を段落ごとに図示しました。



◎ 叙述と注解／学習のポイント／発問例／脚問の解答例

文脈に即した語句の意味を示しました。また教材の導入や段落ごとのポイントも示しています。教科書の脚問の解答例と、授業や定期テストに利用できる発問例を示しました。難易度を一目でわかるように示しています。

叙述と注解／学習のポイント

導入

- ① 「科学」的な理論で知っているものを発表させる。
- ② 「魔術」的な思考で知っているものを発表させる。
- ③ 現代において「科学」と「魔術」が同一の思考回路であることを感じたことがあるかどうか、考えさせる。

※第一段（初め～一三三・一三）

- 1 検証 **重要語** 実際に物事に当たって調べ、仮説などを証明すること。この証明があつて初めて科学は理論として成立する。
- 2 法則 **重要語** 一定の条件下で、事物の間に成立する普遍的、必然的関係。科学にはこの普遍性が必須の条件となる。
- 2 古典力学 ニュートンが確立した力学理論。慣性の法則、作用反作用の法則などが代表的な運動法則。
- 3 相対性理論 アインシュタインによって提唱された理論。時間は観測者によって異なる相対的なものであるとされる。
- 3 進化論 生物のそれぞれの種は、単純な原始

生物から進化してきたものであると考える。ラマルクの用不用説、ダーウィンの自然選択説、ド・フリーズの突然変異説などがある。現在では主として進化の要因論をいう。

3 遺伝子理論 遺伝子の中心となるのはヒトゲノムであろう。ヒトゲノムとは人間（ヒト）のもつすべての遺伝子の情報。約三〇億個のDNA（デオキシリボ核酸）の塩基配列に情報として記録されている。

4 整合 **重要語** ずれや矛盾がなく、前後・上下などがそろること。また、そろえること。論理が矛盾することなく整うことで理論は普遍性を獲得することができる。

4 ようするに「筋道立てて」「古典力学」「相対性理論」「進化論」「遺伝子理論」といった難解な理論についてわかりやすく説明するために「論理整合的」という言葉が直前で用いられているが、その語をさらに理解しやすく、そして直後の「仮の説明」の括弧つきの語につなげるために敢えて「筋道立てて」という括弧つきの語で言いかえている。

5 「仮の説明」 世界や出来事を理解するためにひとまず論理整合的に求められた「説明」のこと。後述されるように反証可能性が常に伴うために「仮の」という言葉と括弧によって

発問例／脚問の解答例

「二二八ページ」

発「科学」（一行）の特徴について説明しなさい。

答 仮説と検証によって確かめられた法則性によって世界を理解すること。それゆえ「科学」は常に実証性、反証可能性を伴うため「仮の説明」でしかありえない。

解説

問いかけから始まる文章である。直後にその問いかけの解答が示されるので、ここで、その部分を抜き出したものを正答として示したが、その前に、生徒自身は「科学」の特徴をどう考えているかを答えさせる。次に、著者は科学をどのようなものと定義しているかを本文から確認させるという手順をとりたい。

発「さしあたり真なる理論」（六行）とはどのようなことか。

答 論理的整合的に作られた仮説に対して否定する事実が見いだされない場合、その仮説をひとまずは「真なる理論」として扱わなければならない

重要語

教科書の各ページに示してある「重要語」については、マークで示しています。

板書例

クラスごとで先生が違って、ここは共通して押さえない、という板書例を示しました。

- 強調されている。
- 6 「さしあたり真なる理論」 科学ではその事実を否定する事実が出現しない限りそれが「真なる理論」となる。
 - 7 実証性 **重要語** 確かな証拠をもって証明すること。事実によって明らかにすること。「理論」を構成する基礎的な要素となる。
 - 8 反証可能性 科学哲学术語。あることがらが観察や実験の結果によって否定あるいは反駁される可能性をもつこと。科学と非科学を分かつ基本的な要素とされる。
 - 8 真偽 **重要語** 真実とつわり。本文では反証可能性を補強する語として用いられている。
 - 10 「確実な知識」 括弧つきで語句が用いられているのは辞書的な意味での「確実」さがあるわけではなく、あくまで「仮の説明」であり、「さしあたり真なる理論」であるから。
 - 10 明証性 **重要語** どんな人もその真理性を絶対に疑えないような認識のもつ直接的確実性のこと。

板書例
「科学」→論理整合的に作られた「仮説」
・実証性
・反証可能性
↓仮説・さしあたりの真理

「二二九ページ」

本文図版の解説

・五世紀に描かれた世界図（二二九ページ）
一四九三年に刊行された「ニュルンベルク年代記」Nuremberg Chronicleに収められた世界図。Nuremberg Chronicleとは、聖書に基づいて書かれた中世ヨーロッパの世界史の本である。著者は、ドイツ人医師のハルトマン・シュイデルHartmann Schedel（一四四〇―一五〇四年）。挿画はニュルンベルクの画家ミハエル・ボルゲムート Michael Wolgemut である。

教科書掲載の挿画では、中世ヨーロッパ人の思い描く世界地図の三辺に、「創世記」の登場人物であるノアの三人の息子たち（左上にヨセフ、右上にセム、右下にハム）が描かれていて、世界を支えている。魔人や怪物については、スペースの都合上割愛したが、「参考資料」6に、全面を掲載した。（PPS通信社提供）

こと。

発「『確実な知識』（一〇行）と括弧が付されているのはなぜか。

答 辞書的な意味での「確実」さがあるわけではなく、あくまで「科学」は「仮の説明」であり、「さしあたり真なる理論」にすぎないから。

「二二九ページ」

発「究極」（九行）とはどのような意味か。

答 物事をつきつめ、極めること。

脚問1 「さしあたりの真理」（一〇行）とはどのようなことか。

答 科学的知は常に「仮説」なので、反証されるまで「真理」として取り扱われるにすぎないこと。

発「古代や中世に描かれた多くの世界図」（一六行）からどのようなことが理解できるか。

答 「世界」は全て人間の「知」によって理解可能であるとする世界観をう

発問例・脚問の解答例

難易度は、「マークなし」易しい→「★」やや難しい→「★★」難しいまで3段階で示しました。

キーワード

◆魔術

魔術や呪術という何を連想するだろうか。テレビで放送されるマジック・ショー、あるいは祈祷師や霊媒師などがすぐに思いつくかも知れない。また歴史をひもといてみれば古代ギリシャから一三―一四世紀の西ヨーロッパ諸国に至るまで卑金属から金を生成しようとする錬金術が大いに流行する。そもそも金は金からしかできないのだからこのような錬金術は嘘っぱちで、錬金術師という言葉は今現在では魔術師とはほぼ同義語で用いられることが多い（例えば優れた作家や劇作家を「言葉の錬金術師」と呼ぶように）。

しかし注目しなければならないのはこのような嘘っぱちな存在である錬金術が今現在では学問として正当な位置を占めるに至った化学の基礎を築いたということだ。そもそも昔の錬金術師たちは今のわれわれが想像するようないわゆる「魔術師」の格好はしていなかったし、一つの確立した学問分野として認知され、教科書本文に登場するアイザック・ニュートンもまた錬金術に大きな関心を寄せた一人であった。そしてこのような「嘘っぱち」な錬金術師たちの試行錯誤によって化学の基本ともいえる周期律表は完成したといってもよい。

また重力と磁力、特に磁力の発見は魔術は大いに関係している。山本義隆『磁力と重力の発見』全三巻（みすず書房 二〇〇三年）によれば見えぬ力で遠くのを動かす「遠隔力」の説明はとうてい魔術的な理論構成なしではあり得なかったという。山本は特に後期ルネサンス期において実験と検証に基づく合理的な科学のアプローチと思想の枠組みとしての魔術が果たした役割に最大限の注目を払っている（第二巻）。魔術が次第に脱神秘化し理論化され、さらに技術として応

用されることで科学と合流していく過程は山本のこの著作のクライマックスでもあり、大変スリリングだ。

魔術といえは科学と正反対のイメージがあるが、このように歴史的な経緯を考えてみるにむしろそれらは相互補完的に発達してきたと考える方がよいだろう。教科書本文で若林は現代の科学の思考回路が「魔術」的であると指摘しているのだが、実際はこのように科学と魔術は表裏一体として、あるいは同列の発展形態をたどったと考えるのが現代における科学史の考え方であるといえるだろう。

◆科学——科学と宗教

このような科学史をキリスト教の立場から捉えたのが村上陽一郎『科学史からキリスト教をみる』（創文社 二〇〇三年）である。コペルニクスは地動説を発表したためにカトリック教会から弾圧されたが、以降ガリレオ裁判などわれわれは科学史を「宗教対科学」の構図で捉えがちである。しかし一六―一七世紀の「科学」は教会の推奨をうけたものであった。学問体系そのものからキリスト教が取り払われて、自律した分野として科学が成立した時期を「近代」と考える村上は聖俗革命という概念を提唱して独自の科学史観を打ち立てようとする。

このような近代科学が果たしてきた役割は合理化、効率化そして人間の疎外化であった。日本を例に取るならば明治政府がその政策のほは最初に行ったことが交通網を発達させることであった（明治五年九月新橋―横浜間鉄道開通）。当時西洋から輸入した科学技術によって鉄道を敷き、山があればそこをのぼることなくトンネルを掘り最短距離で目的地へ行けるように合理化を図った。またムダやムラをなくしいかに最小限の労力で最大限の効果を上げるのかという効率化にわれ

◎作品解説

評論教材については「作品解説」、小説教材と古典教材については「作品鑑賞」として、教材の読み解きや、国語として教室で読む意義など、教材研究の中心的な点について解説しました。

作品解説

この評論のねらいは科学以前の「神話的、宗教的、呪術的思考」と現在の科学的知、科学技術を対比しながら、結局は科学そのものに「魔術」的な思考がまつわることを指摘したことにある。あわせて最も価値中立と考えられ、われわれの信頼も高い科学そのものへの異議申し立てでもある。

この評論で注目すべき表現の一つめは「科学的な知は、宗教や神話や魔術や呪術よりも『無知』なのだ。」（二三〇・一〇）である。「科学的な知」とは「仮説と検証によって確かめられた法則性によって世界を理解すること」（二二八・一）であり、あくまでこのような「仮説と検証」によって確認された限定的な「知」である。それに対して「神話的、宗教的、呪術的思考」（二三〇・六）は「仮説と検証」を必要とせず、「信仰や宇宙観」によって世界を知ってしまうのである。

「科学的知」では到底知りえぬ領域が、それらによっていとも簡単にわかってしまうのだ。その格好の例としてあげられているのが「世界図」である。「科学的知」ならば空白として描くことしかできず、沈黙しなければならない領域を「神話的、宗教的、呪術的思考」は強引なまでに理解してしまい「魔人や怪物たち」を描くことで表現してしまう。この二つの「知」の有様を見たとき、近代科学の洗礼を受けているわれわれは後者を「非科学的」であるとして排除してしまうのだが、しかし冷静にこの二つを並置してみれば明らかに「神話的、宗教的、呪術的思考」の方が「世界」を知る技術として「高度」なのである。よって「科学的な知」は「無知」なのである。

二つめに注目すべき表現は科学技術によって「不透明で理解不可能な領域を抱え込んだ」（二三二・五）である。科学技術の発展が世界を

予測可能で操作可能なものとし、論理的に合理性の取れた世界を構築し、さらに人間は効率性を手にすることになるのだが、それと同時に「不透明さ」を抱え込むことになる。例えば電卓を考えてみよう。どんな複雑な計算でもテンキーを叩けばたちどころに結果を表示するこの機械はそれまで紙と鉛筆で筆算をしていたわれわれの計算の技術を飛躍的に効率化させた。紙も鉛筆もいらず、ただキーを叩けばいいのである。計算の処理は速くなり、何より正確になった。しかし、このように身近で手軽な電卓が、いったいどのような仕組みで計算をしているのか、具体的に言えばあの薄ぺらかな機械の内部を殆ど人は知らないということだ。科学技術はこのように効率性を高めると同時にわれわれが知ることのない（知ろうとすら思わない）「不透明で理解不可能な領域」を拡大させてつづけている。

三つめに注目すべき表現は「現代の社会で科学は魔術化される」（二三三・九）である。「科学」が進歩しさらなる効率化、能率化が図られ生活が飛躍的に便利になっていく一方で、前述のように誰も理解ができない「不透明で理解不可能な領域」が次第に拡大していく。そうでありながらもわれわれは後者に目をつぶり、前者ばかりを享受しようとする。それが過信へ、さらに信仰へと変貌するとき、「科学」は万能であり「何でもわかり、何でも解決できる」（二三三・八）とわれわれは思い込むようになる。このような思考はやがて本来ならば「わからないもの」を強引に理解可能な領域へと引きずり込むことになるだろう。それはまるで「世界図」において「神話的、宗教的、呪術的思考」が知りえぬ場所を強引に理解可能としたのと同様の思考体系である。このような思考体系において「科学」は「魔術」と同一の軌跡を描いてしまうのである。

参考資料

1 社会学入門一歩前

若林幹夫

教科書収録に際して分量調節のため削除した部分。科学が導き出す「合理性」「合理化」について詳述されている。教科書本文「不可能な領域を抱え込んだのだ。」(二三・五)と「そうだとすれば私たちは、(二三・六)の間に挿入されていた文章。この部分がなくとも著者の主旨は伝わるが、より具体的な例が示されているので、授業の際に口頭で補うとよい。時間に余裕があればコピーして配布し、授業時間中に読むか、授業後に生徒が自由に読むようにすると、より生徒の理解を確かめるものにするだろう。

明晰な合理性と不気味さはどちらも、今日にいたってなお、道具や機械や技術の本質なのだ。

さまざまな合理性

ところで、科学的であることと合理的であることは、いつも一致するわけではない。科学的であるとは、世界に対する知識や探求、働きかけが、科学を特徴づける実証性や反証可能性にもとづくようになるということだ。それに対して合理的であることは、必ずしも科学的である必要はない。現代の日本語では「合理的」という言葉や「合理化」という言葉は、「効率的」や「効率化」という言葉とはほぼ同じ意味で使われることが多い。だが「合理的」という言葉には、もっと広範かつ複雑なニュア

ンスがある。

合理的であるとは、文字どおりには「理に合っていること」ということだ。だが、「理」と言ってもいろいろある。与えられた目的に対して最小のコストで最大の効果を上げることが理にかなっていると考える人もいれば、たとえ効率は悪くても道徳的な正しさや倫理性といった価値観に即した行為や状態を選択することが理にかなっていると考え人もいる。

たとえばスポーツの試合で、対戦相手がどこかを怪我しているとして、競技に際しての目標は勝利することだ。そして、より確実に勝利するためには、競技のルールに違反しないかぎりでも相手の負傷を利用し、ときにそれを痛めつけるような攻撃を仕掛けることが理にかなっている。だがしかし、そのように相手の弱みを利用することはルール違反でなくともフェアではないと考えるならば、それは理にかなっていないという判断もありうる。この場合には、相手の弱みを攻めないこと、ときにはそれによって自ら敗北してしまうことが、合理的であるということになる。

また、いわゆる「お役所仕事」では、仕事の効率性よりも所定の手続きを踏み、前例を踏まえ、役所の縦割り区分が守られていることが重視される。目標を達成するための効率的な手段という視点からすればまったく理にかなっていないこうした「官僚体質」も、所定の手続きを踏み、あらゆる事案を例外なく平等に、失敗なく処理するという官僚制の「理」に即してみれば合理的だと見なされる。

このように、ある行為や状態が合理的であるかどうかは、どのような「理」を基準とするかで違ってくる。合理的な行為や状態とは、ある「理」の規準に関して適切な行為や状態が選ばれていることが、行

参考資料

授業用プリントとして使える資料や、先生方の教材研究に役立つ資料を掲載しています。

◎参考文献 教材研究および作者研究のための基本文献を列挙し、簡潔な解説をつけました。

参考文献

【筆者について】

◆若林幹夫『増補 地図の想像力』(河出文庫 二〇〇九年)

「参考資料」1に挙げた文献。講談社選書メチエ(一九九五年)で出版され、河出文庫で再版されるに際して増補された。

◆若林幹夫『社会学入門一歩前』(NTT出版 二〇〇七年)

「魔術化する科学技術」所収の評論集。題名の通り社会学を学ぶために必要な考え方が身に付く。

◆若林幹夫『漱石のリアル——測量としての文学』(紀伊國屋書店 二〇〇二年)

社会学的な視点からの漱石論。漱石の小説を自律的な芸術作品として読むのではなく、近代社会の特質を刻印した「測量図」として読むことに眼目がある。漱石の作品を授業で展開するときに参考になる。

【教材のテーマについて】

◆山本義隆『磁力と重力の発見 1 古代・中世』『磁力と重力の発見 2 ルネサンス』『磁力と重力の発見 3 近代の始まり』(みすず書房 二〇〇三年)

この三冊は可視化されない力である磁力と重力がどのように発見されるに至ったのかを魔術や呪術など様々な言説を比較検討しながら明らかにした壮大な物理学史である。古代ギリシャから始まりニュートンに至るまでの展開がダイナミックに描かれる。理系の本であるが、歴史学の成果も取り入れられ極めて文系の記述方法に近い(ちなみに縦書きである)。教科書本文と大いに関係してくるのは第二巻「第15章 後期ルネサンスの魔術思想とその変貌」である。

「魔術」がいかに「科学」へと変貌していったのかを知ることができる。文系、理系にとらわれず根気さえあれば読み通すことが可能である。

その他、山本義隆の著作はこの三冊の続編として「二六世紀文化革命1」「二六世紀文化革命2」(みすず書房 二〇〇七年)があり、興味を湧いたらぜひ読んでほしい。その他「熱学思想の史的展開 熱とエントロピー」全三巻(ちくま学芸文庫)は熱学の歴史に重点を置いた好著。文庫版になり大幅に注の量が増えた。理系(物理学専攻)進学を志す生徒にはおすすめる著作である。

◆伊東俊太郎・村上陽一郎・広重徹『改訂新版 思想史のなかの科学』(平凡社ライブラリー 二〇〇二年)

簡便に科学史を押さえるならこの一冊。自然科学の発達の歴史が当時の思想背景の中でどのような位置づけにあったのかを示しながら要領よく解説している。高校生からでも十分に読むことができる。

◆村上陽一郎『科学史からキリスト教をみる』(創文社 二〇〇三年) 筆者の講演集。聴衆との質疑応答も含まれている。筆者が提唱する「聖俗革命」をわかりやすく解説している。また現在の環境問題とキリスト教の関係など宗教と科学技術の問題が提示されている。講演集なので平明に書かれており高校生にも薦められる。

参考文献

生徒に薦めたい書籍も紹介しています。

学習

言語活動

- ①本文を三つの段落に分けてみよう。また、各意味段落について小見出しをつけてみよう。
- ②二つに分けた意味段落の内容を、キーワードに注意しながらそれぞれ一〇〇字以内で要約してみよう。
- ③各意味段落の内容をつなぎ合わせて、本文全体の要約文を二〇〇字以内で書いてみよう。また、できあがった要約文については、周囲の人と読み合って、違いを確認しよう。

「言語活動」の目的

要約とは、原文の内容を、短文で圧縮することである。巧みに要約された論旨は、文章理解の水準を示すばかりではなく、自分で考えを進める素材として生かすことができる。それゆえ、洋の東西を問わず、要約の訓練は教育上必須のものとされてきた。要約はいわば評論の模倣作りであり、それはあなたの思考の型を多様にするにもつながるのだ。

活動の手順

- ①本文を三つの意味段落に分ける。
- ②それぞれの意味段落からキーワードを抜き出す。
- ③キーワードをもとに、各段落の要約をそれぞれ一〇〇字以内で作成する。83ページのコラム「要約作成のポイント」を確認せよ。
- ④段落ごとの要約をつなげて、全体を二〇〇字以内で要約する。

その際、相互の論理的関係を示す接続語で結ぶ。結論部が明確になるように末尾に示える。またどの部分をそぎ落とすか注意する。

想定される活動例

▼各段落の要約例

第一段落

キーワード 科学と宗教

科学とは「実証的な手続きによって知りうるものだけを知る」という知のあり方であり、また「究極の真理」を指し示すことのない「さしあたりの真理」である。それに対して神話、宗教、呪術的思考は「知りえないもの」に対しても信念と想像力によって「知る」ことができる。それゆえ科学は宗教よりも無知なのである。

第二段落

キーワード 道具や機械と不透明性

道具や機械や技術は科学と結びつき合理性を高めていく一方で、原始古代の人類にとって不透明な世界はそれを消し去る技術として魔術が必要とされていた。現代人にとっては魔術を科学技術に置き換え透明性を獲得していったが、その反面予想することが出来ない不透明性も同時に抱え込むことになった。

第三段落

キーワード 魔術化する科学技術

現代の私たちは透明な理解可能性を獲得しているとはいいがた

確認

1 「さしあたり真なる理論」(二二八・6)とはどのような理論か、説明しなさい。

【解答例】 科学ではその事実を否定する事象が出現しないまでは、ひとまずそれが「真なる理論」となるということ。

2 「古代や中世に描かれた多くの「世界図」(二二九・16)とあるが、これはどのような具体例として挙げているか、説明しなさい。

【解答例】 「神話、宗教、呪術的思考」が科学的な知以上に「知りえないもの」を理解してしまう例として挙げられ、また現代社会における「科学」の認識も同様に「知りえないもの」をあたかも知っているかのように振舞っていることをあらかじめ例として挙げ、理解しやすくする働き。

3 「技術としての呪術や魔術、宗教」(二二一・8)とはどのようなことか、説明しなさい。

【解答例】 原始や古代において不透明さと不気味さを消し去る手段として「呪術や魔術、宗教」が用いられてきたということ。

【指導上の留意点】 「呪術や魔術、宗教」の「必要」性と、我々が「わからなさ」に直面したときに「耐えることができなくなってしまう」「科学」が「何でもわかり、何でも解決できる」という思考回路が導き出されてしまう過程と同一であることを確認したい。

4 「現代の社会で科学は魔術化されるのである」(二三三・8)とあるが、なぜか、説明しなさい。

く、現代の社会が個々の人々には見渡すことの出来ない不透明さの科学と技術の上に立っていることがわかる。このような中で人は「わからなさ」を受け入れられなくなり、「何でもわかり、何でも解決できる」といった魔術的な思考を科学の中に見いだすことになるのだ。

▼全体の要約

科学とは実証性と反証可能性によって明証性を持つものとされる。それゆえ提示するものは否定可能な「さしあたりの真理」に他ならない。これに対して神話、宗教、呪術的思考は科学的に「知りえないもの」に対しても信念と想像力によって「知ること」が可能となる。科学的知はこれを誤謬として退けようとするが、合理化した現代社会においてはその科学自身が実はすべてを説明できる魔術化した思考として存在しているのだ。(一九七字)

指導上の留意点

要約文の書き方としては、原文の進行をなぞる「なぞり型」のほか、主題を問いかけ形式の分として冒頭に置き、それへの解答として本文を要約する「自問自答型」もある。「自問自答型」は「問い」解答」と流れが明確なので、記述がぶれにくいのが特徴である。

評価の基準例

次の点が要約に入っているかどうか確認する。

- 「科学」と「魔術」それぞれの特徴。
- 「科学」と「魔術」の共通点。

「学習」の解説と解答例

「言語活動」については「言語活動の目的」「活動の手順」「想定される活動例」「指導上の留意点」「評価の基準例」など詳しく示しています。

品詞分解(古文)

古文教材には、本文の品詞分解を示しました。文法的に説が分かれているものは下段に示しました。

品詞

名詞以外のすべての語に品詞を示しました。

付属 CD-ROM

品詞分解・現代語訳のデータは、付属 CD-ROM にも収録しています。

品詞分解		品詞分解	
和泉式部、保昌	格助修	が妻	1 格助資格
に	格助場所	丹後	格助場所
京	格助場所	に	2 格助時間
歌合	格助修	小式部内侍、歌よみ	格助資格
あり	格助修	に	格助場所
小式部内侍	格助資格	たはぶれ	格助資格
あり	格助修	に	格助場所
「丹後」	格助方向	遣はし	格助修
へ	格助方向	ける	格助修
人	格助資格	に	格助場所
は	格助修	に	格助場所
参り	格助修	に	格助場所
たり	格助修	に	格助場所
局	格助修	に	格助場所
前	格助修	に	格助場所
出で	格助修	に	格助場所
わづかに	格助修	に	格助場所
直衣	格助修	に	格助場所
の袖	格助修	に	格助場所
返歌	格助修	に	格助場所
に	格助修	に	格助場所
も	格助修	に	格助場所
及ば	格助修	に	格助場所
す	格助修	に	格助場所
袖	格助修	に	格助場所
を	格助修	に	格助場所
引き放ち	格助修	に	格助場所
で	格助修	に	格助場所
逃げ	格助修	に	格助場所

- 1 断定の助動詞「なり」の連用形「に」に接続助詞「て」のついた形とも考えられる。
- 2 接続助詞で、順接の確定条件を表すとも考えられる。
- 3 2と同じ。
- 4 連体詞とする説もある。

敬語

敬語には敬意の対象も示しました。

活用形

活用のあるものについては、その活用形を示しました。

総ルビ付き本文／現代語訳(古文)

古文教材には、総ルビを付した本文と、現代語訳を掲載しました。

総ルビ付き本文

古文教材の本文にはすべて読み仮名を付して示しました。

和泉式部、保昌が表にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられてよみけるを、定頼中納言たはぶれて、小式部内侍ありけるに、「丹後へ遣はしける人は参りたりや。いかに心もとおぼすらむ。」と言ひて、局の前を過ぎられけるを、御簾よりなからばかり出でて、わづかに直衣の袖をひかへて、
大江山いくの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立
とよみかけけり。思はずに、あさましくて、「こはいかに。かかるやうやはある。」とばかり言ひて、返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり。
小式部、これより歌よみの世におぼえ出で来にけり。これはうちまかせての理運のことなれども、かの卿の心には、これほどの歌、ただいまよみ出だすべし、とは知られざりけるにや。

現代語訳

和泉式部が、保昌の妻として、丹後国に下っていたところに、京で歌合があった時に、小式部内侍が(歌合の)歌人選ばれて、歌を詠んだのだったが(その時のこと)、定頼中納言がふざけて、小式部内侍が部屋にいたところに、「丹後国にお遣わしになった人は帰って参りましたか。どんなに待ち遠しく思っているのしょう。」と言って、部屋の前を通りになったところ、(小式部内侍は)御簾から半分ほど出て、ちよつと(定頼の)直衣の袖を引き留めて、
大江山……大江山を越え、生野を通って行く道のりが遠いので、まだ(丹後国の)天の橋立に行ってもいませんし、(母からの)手紙も見えておりません。
と、歌を詠みかけた。(定頼は)思いがけずに、驚いて、「これはどうしたことだ。こんなことがあるのか、いや、あろうはずがない。」とだけ言って、返歌することもできないで、袖を引き離してお逃げになった。
小式部内侍は、これ以降、すばらしい歌人であるという評判が世間に広まったのだ。
このことはごく普通の(和泉式部の娘である以上、歌を上手に詠むことは)道理にかなったことではあるが、あの(定頼)卿の心には、これほどの歌を即座に詠み出すことができるとは、おわかりではなかったのだろうか。

漢文教材には、総ルビを付した書き下し文と、現代語訳を掲載しました。古典は文脈に即した語句の意味を示しました。古典文法や漢文句法に関することにも触れています。

総ルビ付き訓読

漢文教材の本文には、すべて総ルビ付きの訓読を示しました。

訓読
夫れ禍福の転じて相生するや、其の變見難きなり。近ごろ塞の上の人に、術を善くする者有り。馬故無くして亡けて胡に入る。人皆之を甲ふ。其の父曰はく、「此れ何遽ぞ福ひと為らざらんや。」と。居ること数月、其の馬胡の駿馬を將ゐて帰る。人皆之を賀す。其の父曰はく、「此れ何遽ぞ能く禍ひと為らざらんや。」と。家良馬に富む。其の子騎を好み、墮ちて其の髀を折る。人皆之を甲ふ。其の父曰はく、「此れ何遽ぞ福ひと為らざらんや。」と。居ること一年、胡人大いに塞に入る。丁壮の者は弦を控えて戦ひ、塞の上の人、死する者十に九なり。此れ独り跛の故を以つて、父子相保てり。故に福ひの禍ひと為り、禍ひの福ひと為るは、化極むべからず、深測るべからざるなり。

現代語訳
そもそも不幸と幸福とが入れ替わり互いを生み出すことは、その変化が見極めにくい。近ごろ辺境のとりで近くの人に、占いの術に巧みな者がいた。（ある時この人の）馬が理由もなく逃げ出して胡の領地に入り込んでしまった。人々はみなこのことを気の毒がってお見舞いに行ってきた。（ところが）その老人が言うことには、「このことがどうして幸福（のきつかけ）にならないことがあるでしょうか。」と。数か月たって、その馬が胡の駿馬を引き連れて帰ってきた。人々はみなお祝いを言った。（ところが）その老人が言った、「このことがどうして不幸（のきつかけ）になり得ないだろうか。」と。（老人の）家は良い馬をたくさん持つようになった。その息子は乗馬が好きだったが、落馬して腿の骨を折ってしまった。人々はみなこのことをお見舞いに行ってきた。その老人は言った、「このことがどうして幸福（のきつかけ）にならないことがあるでしょうか。」と。一年たって、胡の人が大挙してとりでの中に攻め込んで来た。健康な働き盛りの男たちは弓を引いて戦い、とりで近くの人たちで、戦死した者が十人中九人に及んだ。ただこの（老人の家の）息子だけは足が不自由であったので、親子共々生き延びた。だから幸福が不幸に転じ、不幸が幸福に転ずることは、その変化を知り尽くすことができず、その道理の奥深さを測り知ることはできないのである。

叙述と注解／学習のポイント

句法のまとめ

・夫ゝ そもそも（提示）
いわゆる発語の語である。
・何遽ゝ乎 どうしてゝだろうか（いや／＼ない）（反語）

・独 たゞだけ（限定・強意）
・不可ゝゝできない（不可能）

「二六〇ページ」

1 夫 文頭にあって、以下の語を導く。いわゆる発語の役を果たす。そもそも、およそ、な

発問例／脚問の解答例

「二六〇―二六一ページ」

発 「善術者」の親子がともに命を落とさずにすんだ理由を答えよ。
答 ・父＝老人であったため。
・子＝落馬のために腿の骨を折り、

だと訳す。

1 転而相生 この場合「転」は、（その位置が）入れ替わる意である。一つの事象から派生する異なった面（ここでは「禍福」が、時に応じて姿を入れ替えて現れることを言うのである。「相生」とは、互いに生み出す、という意味。「五行相生」説（木は火を、火は土を、土は金を、金は水を、水は木を生ずる）の「相生」と同じ意味。

1 難見「難」は、後に動詞句をとめない「しにくい」の意を表す。語感としては、ほとんど不可能、の意になる。

1 近 時間的に離れていないようすを表す。「ちかく」と読んでもよい。この「近」を含む「近塞上之人」は、書き下しの仕方としてこの他に、「塞上に近きの人に」も可能。しかし、「塞上」は、塞の近く（そば）に、の意であるから、この「近」を距離的に離れていないこととして取る必然性はあるまい。

1 塞上之人 ここで言う「塞」は、対異民族戦用に築かれた砦の意。砦は同時に、それが築かれる国境近辺や、辺境地域をさす。「塞外」と言えば、国境の外、の意味になる。「上」は、近く、ほと、そば、の意。

2 善術「善」は、「よくス」と読み、巧みであ

る、の意。「術」とは、現在では技芸一般を表すが、ここでは、暦数や卜筮・占星などの術数をさしている。訳語としては、占いの術に巧み、ぐらいが適当であろう。

2 亡「逃亡」の「亡」と同様、逃げる、の意。

2 胡 北方や西方の異民族、またはその地域の総称。時代によってさし示す民族は異なる。

「淮南子」が書かれた前漢では、匈奴をさすことが一般的。また唐の時代には、ペルシアなどの西域人をさすのに用いられた。

3 弔 本来は、死者を悼んだり、死者の身内にお悔やみを言うことを意味するが、ここでは、同情する、お見舞いをする、の意。

3 父 読みは「ホ」。目上の男性に対する称。ここでは「老人」と訳した。

3 何遽ゝ乎 「何遽」は二文字で「なんゾ」と読む。句末の助字「乎」と呼応して疑問・反語形を作る。疑問であるか反語であるかの区別は、基本的に文脈に沿って行わなければならない。単純に反語形であると指摘するだけでは読解力は深まらない。この「何遽ゝ乎」ばかりではなく、疑問の助字や疑問代名詞・疑問副詞などは、疑問か反語か詠嘆かという区別が、形式上からはしにくい。本来、疑問とは事物を単純に受け入れずに疑念を抱く行

片足が不自由であったため。

発 「（人間万事）塞翁が馬」と同じ意味の慣用句を答えよ。

答 禍福は糾（あざな）える縄のごとし

「二六〇ページ」

発 「転而相生」（二六〇・一）とは、どのような意味か。

答 禍が福を生み出し、福が禍を生み出し、次々と入れ替わること。

発 「何遽」（二六〇・三）の意味を漢和辞典で調べ、ノートに書きなさい。

答 「どうしてゝするか」（疑問・反語）。

解説 教科書本文は「何遽ゝ乎（なんゾ）や」と疑問の助字が加わった形となっている。「なんゾ」と読んで疑問・反語を表す語は多く、「何・胡・奚・曷・寧・庸」などがある。また、これらの語とともに、「乎・也・哉・邪・耶・与・夫・歟」など疑問の助字を文末に用いる場合があることも理解させたい。

標準問題

教科書の文章を利用した問題です。

第6章

魔術化する科学技術(標準テスト)

原寸はB4サイズ

発展問題

教科書の教材や作者に関連した文章を利用した問題。
古典教材もご用意しています。

【二】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(50点)
道具や機械、技術は科学的な知識と結びつくことで、その予測も科学と結びつく以前から、道具も機械も技術も、一定は、世界を予測可能で操作可能なものにするものだった。一定道具や機械や技術の本質なのだ。ある目的に対して、リスクや技術は「合理的」である。そして過去二世紀以上にわたってできたのである。

ところで、原始や古代の人類にとって、世界は意のままになつてた。そうであるがゆえにそこでは、その不透明さと不気要とされたのだ。だから呪術も魔術も宗教も、近代科学技術のそれらに固有の透明さと理解可能性をたらすものだったのだ。それらを使いこなす合理的思考をもつ現代人にとっての世界は、さ、つまり誤謬として退け、理論的な仮説と実証にもとづく。

だがしかし、ハイデガーの言う意味での「不気味さ」は、さらに新たな予測不可能性を生み出してしまふことを示している。あらかじめ予想がでなかつたり、今のところ理解することが、そのほの暗い領域を拡大させてゆく。私たちの社会は科学性を手に入れたように見えるけれど、そのことによって同ある不透明で理解不可能な領域を抱え込んだのだ。

そうだとすれば私たちは、原始や古代の人びとに比べて透明性については、確かに向上したかもしれない。ナイフのよう、いが「石器の使用法についてならなさだ」――日々の暮の便利さを享受している。だがしかし、そうした道具や機械やの多くは理解していない。科学技術の発展と社会への応用、浸この「わからなさ」の領域に目を向けることは普通でない。だが、とっては見通すことのできない不透明さをもった科学と技術の、ざしの下に理解し、操作することを可能にしてきた科学と技術、まるで魔術のような領域を広げていったのである。

こうした不透明さの中で、そもそもは「仮説」、つまり「仮のついで」は「B」をカンジュしなくてはならない科学とその決することができ「究極の真理」であるかのように受けとら、ようになると考え、技術によって何でも解決できると考える、とえることができなくなつて、「何でもわかり、何でも解決でき」とするのだ。そう、現代の社会で科学は魔術化されうるのであ

問一 傍線部①のカタカナは漢字に改め、漢字には読みを記しな

問二 傍線部②の語句の意味を簡潔に記しなさい。(4点) [知技]

問三 傍線部③は何をさしているか。一〇字以内で答えなさい。(4点)

問四 傍線部④とはどのようなことか、六〇字以内でわかりやすく説

問五 空欄Aにあてはまる最も適当な語句を次から選び、記号で答えなさい。(6点) [思判表]

(ア) 便利だが理解できない領域

(イ) 享受しているが便利さを感じない領域

(ウ) 合理的だがあくまでも仮説である領域

(エ) 操作可能性が向上しながらも理解できない領域

問六 傍線部④とはどのようなことか。最も適当な説明を次から選び、記号で答えなさい。(6点) [思判表]

(ア) 一般の人々は機械や装置がどのように作られているのかを理解していないにもかかわらず、やみくもに科学を信用することで、享

(イ) 受する範囲を広げてきた、ということ。

(イ) 専門家が開発しわれわれの生活が便利になったにもかかわらず、われわれは彼らに感謝することなく科学技術を楽しんでいる、と

「世界」という言葉(第6章「魔術化する科学技術」発展テスト)

【二】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい(問題文には一部省略した
タサダイ族の人びとにとって、「世界」は彼らが暮らす森を中心とする狭い。彼
土地の向こうにある世界について知りたいという好奇心はもっていない。彼
セレス海やセブ湖があるのに、彼らの言語に海や湖を意味する言葉がない
活の本拠地の近傍でほとんど閉じてしまつており、その外側の空間は社会的に
(中略)

現在の私たちから見れば、このような「世界図」は、地理的知識の欠如や自
る、誤つた。世界観を反映した「誤つた地図」でしかない。

だが、ここで論じたいのはこれらの地図が「誤つた地図」か「正しい地図」
て言えば、一九世紀および二〇世紀の地図のいくつかにあつても、これらの地
た、これらの地図がそれぞれのどのような世界観や宇宙観を示しているのかとい
こで考えたいのは、これらの地図がその「でつちあげ」によって示している「
である。

今日の私たちの地図においては、地図の上に記された記号はすべて、地球表
もっており、地図に示された概念やイメージは、世界の側に言及する対象を
ての有効性を保証されている。国境や市境のように地上に具体的な「線」をも
社会制度のうちに言及の対象をもっているものであり、その意味で私たちの地図
ロニアの世界図や中華帝国の世界像、ヘリフォード図には、地上に直接の言及
いる。ここでは文字通り想像的な水準で世界が概念化され、イメージされてい
重要なことは、世界像に関するこの「想像的(創造的)なでつちあげ」に
間の集団が直接知っている領域を超えて拡張され、その拡張された領域が想像
されているということだ。それによってこれらの地図では、地図が可視化する
域が「意味としての空間」として制作されているのである。

地図の空間はつねに身体的に了解される空間に対する超越性や想像性をも。
において直接に経験できない領域のみならず、いまだかつて当該の人間集団の
で想像的に拡張されており、そのような想像的な領域をもふくんだ超越的な
界が了解されているのである。

逆に言えば、そのような経験可能な領域を越えた超越的かつ想像的な全域と
ここでは世界の地図的な了解を支える想像力は、既知の領域の全域を想像化す
知の領域をあたかも既知の領域であるかのごとくテキスト化し言説化すべく動
つて世界の全域的な像が既知の領域を越えて拡張されることを、「世界の想像

標準問題

観点別評価に対応したアイコンを各問いに付しました。

魔術化する科学技術

年 組 番号 名前

/40

要約プリント

授業終了時に提出させるプリントです。原稿用紙に要約を、
枠内には構成図を書き込めるようになっています。

魔術化する科学技術

年 組

●要旨（二〇〇字）

小テスト問題集

漢字・語句／古語・古典文法／訓読・漢文句法などの確認用問題プリントです。

一 傍線部の漢字の読みをひらがなで記せ。（1点×10）			
① 真偽を確かめる。	「	ア	誰が老
② 日本の海域。	「	イ	普遍的
③ 未踏の土地。	「	ウ	誰が老
④ 超自然的な呪術的思考	「	④ 効率	
⑤ 機械を操作する。	「	ア	使った
⑥ 知識を蓄積する。	「	イ	道理に
⑦ 障害物を退ける。	「	ウ	使った
⑧ 未知の領域。	「	合。	
⑨ 利便性を享受する。	「	⑤ 合理的	
⑩ 苦難に耐える。	「	ア	道徳を
二 傍線部のカタカナを漢字に改めよ。（1点×10）		イ	むだを
① 父親からのイデン。	「	ウ	がんば
② 判断をホリユウする。	「	⑥ 意のままに	
③ 意志をツラヌク。	「	ア	思い込
④ キリスト教をシンコウする。	「	イ	考えを
⑤ マジユツを見る。	「	ウ	真実を
⑥ ゴウリの考える。	「	⑦ 跳梁跋扈	
⑦ キンを固める。	「	ア	邪魔を
⑧ 複雑なソウチ。	「	イ	悪者を
⑨ 社会のハッテン。	「	ウ	悪者を
⑩ 苦言をカンジュする。	「	⑧ 抱え込む	
三次の語句の意味を選び、記号で答えよ。（2点×10）		ア	重要な
① 法則	「	イ	たくま
ア 事物の間に成立する普遍的関係。		ウ	負担に
イ 世間で通用する決まり事。		⑨ いったん	
ウ 世の中の常識的な思考。		ア	一回。
② 明証	「	イ	わざを
ア 誰の目から見ても間違いのないこと。		ウ	ひとを
イ どんな時にも証明となるもの。		⑩ 来るべき	
ウ 絶対に疑うことのできない確実性。		ア	近いふ
③ 真理	「	イ	来るふ
		ウ	必要に

評価

自己評価ができるチェックリストが入っています。

●評価

1. 書き方

① 正しい表記がなされているか。

(A B C)

② 適当な表現で書かれているか。

(A B C)

③ 字数制限の九割以上は書かれているか。

(A B C)

2. まとめかた

① 主張がとら

② 論の構造が

●構成図

オンライン指導資料／ 漢文編集システム

指導書付属CD-ROMを通して、各種指導資料が
ダウンロードできます。
漢文編集システムで、漢文の問題作成も手軽にできます。

「現のそら寝」重要語ワークシート

年	組	番
語	ページ	行
つれづれ	一九	1
わろし	一九	3
おじろかす	一九	6
おどろく	一九	7
いらふ	二〇	1
念ず	二〇	4
なこそ	二〇	6
あな	二〇	9
わびし	二〇	9
すべなし	二二	1

「重要語ワークシート」
（「言語文化（古文）」「現代の国語」）
予習や自学自習に便利。

年	組	番
語	ページ	行
相反	一六	1
普羅	一六	2
然	一六	2
解	一六	7
歩	一六	8
近	一六	12
交	一七	6

「実践」用ワークシート
（「現代の国語」「言語文化」）
アクティブ・ラーニングの実践に最適。

① 左の「大江山」の吹き出しの空欄にセリフを書き込んでみよう。

② 「大江山」の吹き出しの空欄にセリフを書き込んでみよう。

③ ④の四コマ漫画を書く前に、工夫したところを書こう。

⑤ ⑥の四コマ漫画を書く前に、工夫したところを書こう。

能力五角形を作ろう

人物

能力五角形を作ろう

能力五角形を作ろう

「課題用ワークシート」
言語活動の課題に適宜ご用意しました。

「図解穴埋めシート」(「現代の国語」)
構成がコンパクトにまとまっています。

漢文編集システム(「言語文化」)
Wordで漢文を
編集することができます。

第1章

古文への扉

児のそら寝

教科書
19～21
ページ

◆文法と語句の確認◆

1 文法 次の表のワ行の空欄に、歴史的仮名遣いを、ア行にならって書き入れなさい。

ワ行	ア行	イ行	ウ行	エ行	オ行
	あ	い	う	え	お
	ア	イ	ウ	エ	オ

2 文法 次の傍線部を現代仮名遣いになおしなさい。

- ①よひのつれづれに
- ②寝ざらむも
- ③待ちぬたるに
- ④うれしとは思へども

3 語句 次の語句の意味を書きなさい。

- ①つれづれ（一九・一）
- ②わろし（同・三）
- ③いらふ（二〇・一）

- ⑤いまひとこゑ
- ⑥ただ食ひに食ふ音のしければ
- ⑦いらへむ
- ⑧おどろかせたまへ

「児のそら寝」の準拠課題ノート

第12章

読みつがれることば

朝三暮四——列子・莊子

教科書
198～199
ページ

読みつがれることば——82

「朝三暮四」の準拠課題ノート

◆語句と句法の確認◆

1 語句 次の語句の意味を書きなさい。

- ①将限「其食」。（一九八・三）
- ②勞神明「為」一、而不知「其同」也。（一九九・一）

2 句法 次の句法の意味と種類を、あとから記号で答えなさい。

- ①能「將限」
 - ②將「其食」
 - ③何「これからしようとする・したい」
- ア 何を「する」のか
イ これから「しようとする・したい」
ウ 「できる」
- 意味 種類
a 再読文字・意思・推量
b 可能
c 疑問

◆文脈と文意の整理◆

1 「宋有「狙公者」。（一九八・一）を書き下し文にしたときの、①主語、

②述語、③連用修飾語にあたる部分を書きなさい。

①

②

③

2 副詞の①「俄」（一九八・二）と②「俄」（同・五）が本文で果たして

いる表現効果を次から選び、記号で答えなさい。

- ア「衆狙」に考える時間を与えなかったことを表す。
- イ「狙公」の対策が一時しのぎであったことを表す。
- ウ状況の転換を表す一方、本旨に向かう契機としている。

3 「朝三暮四」（「列子」）の本文にある三種類の置き字に抜き出しなさい。また、それぞれの種類を上からえなさい。

- ア 強調 イ 疑問
 - ウ 対象 エ 接続
- 置き字 種類

4 「朝三暮四」（「列子」）について、「衆狙」はなぜ「怒って、「朝四暮三」には喜んだのか。一つ選びなさい。

- ア 夕方に実を多くもらうより、朝に多くもらうほうが実が減らされるのではないと分かったから。
- ウ あとのほうが実は多くもらえと思ったから。

5 「朝三暮四」（「莊子」）の方は、何を言おうとしてい

解答

別冊解答つき。

デジタル教科書の ビューアーの特徴と使い方

特徴

- ◎ 筑摩書房のデジタル教科書は「みらいスクールプラットフォーム」を採用しています。
- ◎ 学習に便利な機能を搭載しています。
- ◎ 教科書にマークのある教材は、インターネット上の参考ページにリンクします。

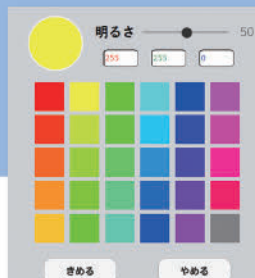
「学習者用デジタル教科書」クラウド版（1ライセンス100）
「指導者用デジタル教科書」クラウド版（1ライセンスあたり100）／DVD-ROM版



機能

ペン・マーカー

紙面に書きこみができます。色・透明度・太さも自由に設定できます。存」することができます。



機能

図形／スタンプ

紙面に様々なスタンプが押せます。線や丸・四角などの図形を加えることができます。



機能

消しゴム

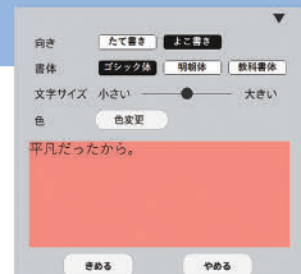
消す機能は、4つの機能を用意しました。



機能

道具機能

ふせん・ポインター・タイマー／ストップウォッチがついています。



機能

記録

書き込みなど、紙面に付加した情報は「保存」することができます。



機能

デジタルコンテンツ

学習を助ける資料や、教材理解の参考になるインターネット上のウェブサイト・画像・動画などを表示できます。



指導者用デジタル教科書の特徴

クラウド版(1ライセンスあたり101D)/DVD-ROM版

特徴

- ◎ 解答表示がスムーズに。
- ◎ 教科書の「学習の手引き」「脚問」の解答を簡単に表示することができます。
- ◎ 古典教材では教科書から品詞分解・書き下し文・現代語訳を簡単に表示することができます。
- ◎ 朗読音声を聞くことができます。（一部教材）
- ◎ 副読本「読解 古文単語 343」「詳説 古典文法 改訂版」
- ◎ 「詳説 漢文句法 改訂版」などのリンクも充実。授業が進めやすくなります。

指導書

課題ノート

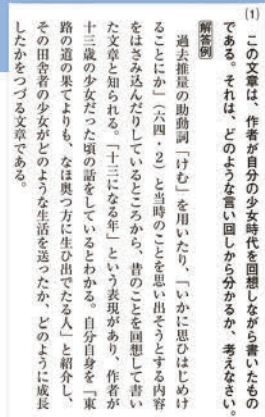
デジタル教科書

指導一覽・周辺教材

機能

手引きの解答例

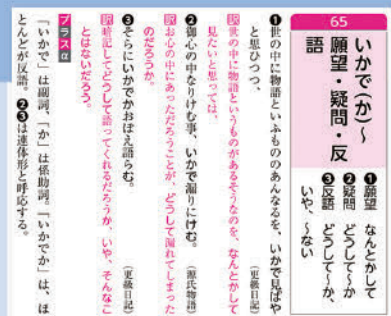
各教材の末尾の手引きについて、問題文をクリックすることで解答例（指導書掲載）を表示できるようにしました。



機能

古文単語

古文教材の脚注欄に記載した「注意する語句」のうち、『読解古文単語343』で解説しているものに関して、語句をクリックすることで同書の解説ページを表示できるようにしました。



機能

脚問の解答例

問題文をクリックすることで解答例（指導書掲載）を表示できるようにしました。



機能

朗読

朗読音声の用いられている教材において、朗読音声を再生できます。(別売の「朗読CD」もご用意しています。一部、CDには収録されていない作品もあります)。

朗読：壤晴彦・竹下景子・李軼倫



「朗読 CD」の
詳細は→ P47

機能

品詞分解

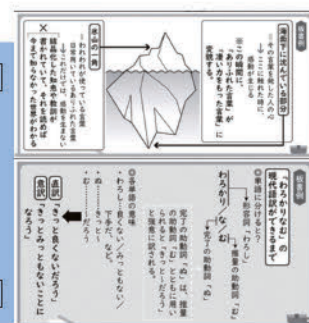
古文教材において、文章を構成する単語の品詞・活用・活用形などの傍注を付したテキストを別タブで表示できます。上から書き込みも可能です。



機能

板書例

指導書掲載の
板書例を適宜
表示することが
できます。



機能

現代語訳

主に古文／漢文教材において、その現代語訳を別タブで表示できます。上から書き込みも可能です。



運用方法と動作環境

運用方法と使用媒体、対応OS				
運用方法	使用媒体	インストール先	サーバー OS	利用者端末 OS
端末インストール (スタンドアロン)	DVD	各利用者端末に インストールして使用	—	Windows 10 / 11
サーバー配信	DVD	学校・教育委員会のサーバー 機にインストールして使用 (サーバーに各利用者端末で アクセスして使用)	Windows Server 2016	Windows 10 / 11
			Windows Server 2019 等 ウェブサーバー (Apache, IIS) が 動作するOS	
クラウド配信	—	インストール不要 (当社指定のクラウドサーバー に各利用者端末のブラウザで アクセスして使用)	—	—

動作環境 (サーバー)	
OS	Windows Server 2016 Windows Server 2019等
	Server 2019等ウェブサーバー (Apache, IIS) が動作するOS
ハードディスク	各教科 1 学年ごとに約 4 GB 以上の空き容量が必要
DVD-ROMドライブ	インストール時に必要
通信環境	100BASEイーサネット以上を推奨

動作環境 (利用者端末)	
OS	Windows 10 / 11, iPadOS, Chrome OS
CPU	上記OSが快適に動作すること (指導者用はcore i3 程度を推奨)
メモリ	上記OSが快適に動作すること
▶インストールして利用する場合	
ハードディスク	各教科 1 学年ごとに約 4 GB 以上の空き容量が必要
DVD-ROMドライブ	インストール時のみ必要
▶配信で利用する場合	
通信環境	100BASEイーサネット以上を推奨 (1クライアントあたり1Mbps以上の転送速度を確保できること)
ブラウザ	Windows : Internet Explorer 11, Edge, Chrome, iOS : Safari, Chrome OS : Chrome

画面解像度

1366×768 px 以上 (1920×1080 px 程度を推奨)
※設定により一部表示できない場合がございます。

ブラウザの設定

JavaScript : ON Cookie : ON
※記載外のOS・ブラウザ意外では正常に表示されない場合があります。

その他

※筑摩書房のデジタル教科書は、「みらいスクールプラットフォーム」(<https://www.mirai-school.jp/platform/>)を採用しています。
※IE 11は自動音声読み上げが非対応のほか、一部機能に制限がかかる場合があります。
※開発中のため、内容・仕様に関しては予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

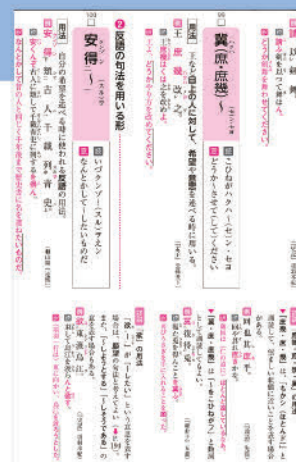
- ◎ OS は、Windows、iOS、Chrome OS に対応しています。
- ◎ 利用者端末へのインストール版 (Windows 端末のみ)・サーバー配信と、クラウド版をご用意しています。
- ◎ 学校の設備環境に合わせて、ご利用になれます。



機能

古典文法・句法

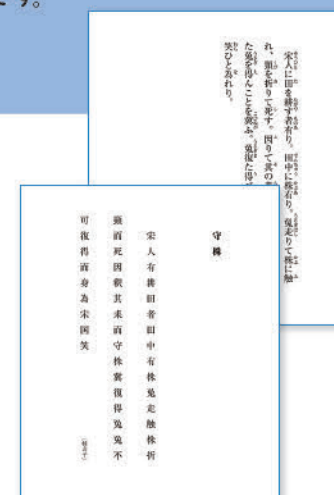
「古典文法の窓」および「句法のまとめ」には、それぞれ『詳説 古典文法 改訂版』『詳説 漢文句法 改訂版』をリンクしました。



機能

訓読・白文

訓読では書き下し文を、白文は返り点のない原文を別タブで表示できます。上からの書きこみも可能です。



このほか、次のようなことを示すことができます。

- ・「歌意」: 短歌の大意を示す。
- ・漢詩については、中国語と日本語、二種類の朗読をご用意しています。

指導資料一覧

評価問題・教科書紙面 PDF・実践用ワークシート・ 図解穴埋めワークシート・ルーブリック評価シートなど、さらに充実しました。

指導書

課題ノート

デジタル教科書

指導一覧・周辺教材

指導資料各種		ちくま 現代の国語 (現国 143-901)	現代の国語 改訂版 (現国 143-902)	ちくま 言語文化 (言文 143-901)	言語文化 改訂版 (言文 143-902)	論理国語 (論国 710)	文学国語 (文国 708)	古典探究 (古探 715/716)
指導書「学習指導の研究」(A5版)		5分冊 + CD - ROM1枚	4分冊 + CD - ROM1枚	5分冊 + CD - ROM1枚	4分冊 + CD - ROM1枚	5分冊 + CD - ROM1枚 本体 34,000円	5分冊 + CD - ROM1枚 本体 34,000円	6分冊 + CD - ROM1枚 本体 36,000円
指導資料データ (CD-ROM)	教科書本文データ	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word
	訓点付き漢文原文データ	—	—	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	—	—	一太郎・Word・PDF
	古文品詞分解	—	—	一太郎・Word	一太郎・Word	—	—	一太郎・Word
	漢文書き下し文	—	—	一太郎・Word	一太郎・Word	—	—	一太郎・Word
	古文・漢文現代語訳	—	—	一太郎・Word	一太郎・Word	—	—	一太郎・Word
	〈テスト・評価問題〉基本問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
	〈テスト・評価問題〉標準問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
	〈テスト・評価問題〉発展問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
	〈テスト・プリント〉小テスト問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
	漢文編集システム	—	—	一太郎・Word	一太郎・Word	—	—	一太郎・Word
オンライン指導資料	教科書紙面 PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF
	課題ノートデータ	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word
	授業用プリント	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word
	実践用ワークシート	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
	図解穴埋めワークシート	PDF	PDF	—	—	PDF	—	—
	授業用図版素材	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF
	古文・漢文本文スライドデータ	—	—	パワーポイント	パワーポイント	—	—	パワーポイント
	ルーブリック評価シート	Excel	Excel	Excel	Excel	Excel	Excel	Excel
学習 link 集		デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ

※指導書「学習指導の研究」(A5版)内には、「朗読 CD」、「学習指導の研究 PDF 版」は含まれません。

【別売】朗読 CD	—	—	【別売】 CD 2枚組	【別売】 CD 2枚組	—	【別売】 CD3枚組 本体 8,000円	【別売】 CD2枚組 本体 6,000円
【別売】指導書分冊「学習指導の研究」PDF ファイル版	【別売】 CD - ROM1枚	【別売】 CD - ROM1枚	【別売】 CD - ROM1枚	【別売】 CD - ROM1枚	【別売】 CD - ROM1枚 (本体 6,000円)	【別売】 CD - ROM1枚 (本体 6,000円)	【別売】 CD - ROM1枚 (本体 6,000円)

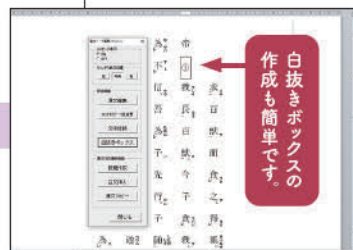
※指導資料関連の一部を破損・紛失した場合は、交換することが可能です。営業部までお問い合わせください。

指導書『学習指導の研究』の内容 全体を次の項目で構成しています。

- 単元の解説
単元のねらい・教材編集の意図・この単元で身につく能力・資質
- 教材のねらい
教材ごとに展開する指導のポイントを解説
- 学習指導の展開例
教材の指導計画案(配当時間)・指導目標・学習活動・指導上の留意点
- 出典
- 著者(作者)解説
- 要旨(主題)
100字・200字の二種
- 意味段落の要旨
教材の全体を意味段落による表で示し、各段落の内容を要約
- 全体の構成図
教材本文の流れをチャート形式で図解(※現代文教材のみ)
- 叙述と注解
教材本文の語句の解説や、文脈上での叙述の解釈
- 学習のポイント
授業前のトピックの紹介や、各段落の要点を整理
(※現代文教材のみ)
- 発問例/脚問の解答
教科書収録の脚問と、発問例・解答。各問には難易度を表示
- 板書例
授業の要所所で示す板書例
- キーワード
本文理解に重要なキーワードを解説(※現代文教材のみ)
- 作品解説(鑑賞)
- 参考資料
- 参考文献
- 手引きの解答例・指導上の留意点
- オンライン指導資料
古文・漢文教材には、このほか以下の項目があります。
- 品詞分解 ※古文編
- 総ルビ付き本文 ※古文編
- 総ルビ付き訓読(書き下し文) ※漢文編
- 現代語訳 ※古文編・漢文編

漢文編集システム 漢文の問題作成も手軽にできます。

- 1 パソコンに新たなソフトをインストールする必要なし。
(Microsoft Word® を利用した全く新しい編集システム)
- 2 返り点や送り仮名などの訓点・傍線・記号などの入力・加工が簡単にできます。
- 3 編集システムを利用してオリジナル訓点付き本文も作成できます。
動作環境/対応 OS : Windows 10,11/対応ソフト : Microsoft Word 2003 以降



詳細は P30～32 をご覧ください。

オンライン指導資料 指導書『学習指導の研究』を通して、下記のオンライン指導資料が利用できます。

実践用ワークシート

図解穴埋めワークシート

ルーブリック評価シート

詳細は P30～32 をご覧ください。

授業をサポートする周辺教材のご案内

指導書

課題ノート

言語文化改訂版

指導一覧・周辺教材

朗読 CD 指導資料

準備中

『ちくま 言語文化』
『言語文化
改訂版』共通
朗読CD 2枚組



『文学国語』
朗読CD 3枚組
本体8,000円+税/
ISBN 978-4-
480-90598-7



『古典探究
(古文編・漢文編)』
朗読CD 2枚組
本体6,000円+税/
ISBN 978-4-
480-90599-4

準拠課題ノート一覧 学校専売品

準備中

現国143-901

ちくま 現代の国語
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/予128頁

準備中

言文143-901

ちくま 言語文化
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/予96頁

準備中

現国143-902

現代の国語 改訂版
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/予96頁

準備中

言文143-902

言語文化 改訂版
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/予128頁



論国710

論理国語
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/160頁/
本体770円+税/ISBN 978-4-480-91056-1



文国708

文学国語
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/144頁/
本体770円+税/ISBN 978-4-480-91057-8



古探715・716

古典探究
[古文編・漢文編]
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/240頁/
本体840円+税/ISBN 978-4-480-91058-5



補助教材集

ちくま文学講読〈初級編〉 監修 東京大学 安藤 宏 日本大学 紅野謙介

A5判/128頁/本体560円+税/ISBN 978-4-480-91091-2

文学の世界を広げる準教科書。1年生でもっと文学的文章を生徒に触れさせたい先生方に!

指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付※指導資料も完備(別売)※学校専売品

A5判/368頁/本体7,000円+税/ISBN 978-4-480-90584-0

ちくま文学講読〈上級編〉 監修 東京大学 安藤 宏 日本大学 紅野謙介

A5判/256頁/本体900円+税/ISBN 978-4-480-91740-9

文学の世界を深める準教科書。2・3年生で必須の文学的文章を扱いたい先生方に!

指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付※指導資料も完備(別売)※学校専売品

A5判/792頁/本体9,000円+税/ISBN 978-4-480-91744-7

デジタル教科書

指導資料

学校専売品

準備中

ちくま 現代の国語 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
ちくま 現代の国語 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID

準備中

ちくま 言語文化 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
ちくま 言語文化 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID

準備中

現代の国語 改訂版 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
現代の国語 改訂版 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID

準備中

言語文化 改訂版 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
言語文化 改訂版 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID



論理国語 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
本体32,000円+税/ISBN 978-4-480-90594-9
論理国語 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID
本体34,000円+税/ISBN 978-4-480-90591-8



文学国語 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
本体36,000円+税/ISBN 978-4-480-90595-6
文学国語 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID
本体38,000円+税/ISBN 978-4-480-90592-5



古典探究 [古文編・漢文編]
指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
本体36,000円+税/ISBN 978-4-480-90597-0
古典探究 [古文編・漢文編] 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID
本体38,000円+税/ISBN 978-4-480-90593-2

ちくま 現代の国語
学習者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 1 ID

ちくま 言語文化
学習者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 1 ID

現代の国語 改訂版
学習者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 1 ID

言語文化 改訂版
学習者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 1 ID

論理国語
学習者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 1 ID
本体1,500円+税/ISBN 978-4-480-91100-1

文学国語
学習者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 1 ID
本体1,500円+税/ISBN 978-4-480-91101-8

古典探究 [古文編・漢文編]
学習者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 1 ID
本体1,700円+税/ISBN 978-4-480-91102-5

デジタル教科書関連書

次の副読本は、筑摩書房版デジタル教科書に関連づけられています。



詳説 古典文法 改訂版
井島正博 編著 伊藤博美・仲島ひとみ 著
※指導資料・補充問題データCD-ROM
A5判/別冊解答付/176頁/
本体680円+税/
ISBN 978-4-480-91737-9 学校専売品



詳説 漢文句法 改訂版
三上英司 編著 石村貴博・大橋賢一・泊 功 著
※評価問題データCD-ROM
A5判/別冊解答付/224頁/
本体700円+税/
ISBN 978-4-480-91738-6 学校専売品

詳説 古典文法 改訂版 準拠 学習ノート
『詳説古典文法 改訂s版』編集委員会 編著
B5判/別冊解答付/64頁/
本体500円+税/
ISBN 978-4-480-91092-9 学校専売品

詳説 漢文句法 改訂版
準拠 学習ノート 北島大悟 編著
B5判/別冊解答付/48頁/
本体500円+税/
ISBN 978-4-480-91093-6 学校専売品



10のグループで覚える
読解 古文単語343
村田正純・吉田 光 著
※自動問題作成
システム(Web版)
B6変型判/256頁/
本体900円+税/
ISBN 978-4-480-
91735-5

1年次

2年次

3年次



現国 143-901
ちくま 現代の国語
[2単位]



現国 143-902
現代の国語 改訂版
[2単位]



言文 143-901
ちくま 言語文化
[2単位]



言文 143-902
言語文化 改訂版
[2単位]

論理国語 [4単位]

文学国語 [4単位]

古典探究 [4単位]

国語表現 [4単位]

編集委員一覧

太字は筆頭編集委員。
以下 50 音順

『現代の国語』『言語文化』編集委員会

【現代文】

安藤 宏(東京大学名誉教授)／**紅野謙介**(日本大学名誉教授)
門屋 敦(東大寺学園中・高等学校教諭)／**河野龍也**(東京大学准教授)
五味洸典嗣(早稲田大学教授)／清水良典(文芸評論家・愛知淑徳大学名誉教授)
関口隆一(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)／橘 直弥(灘中学校・高等学校教諭)
仲島ひとみ(武蔵野大学特任教授)／服部徹也(東洋大学准教授)
松田顕子(立教新座中学校・高等学校教諭)／吉田 光(郁文館中学校・高等学校教諭)

【古典】

高田祐彦(青山学院大学教授)／三上英司(山形大学教授)
井島正博(東京大学名誉教授)／大橋賢一(北海道教育大学旭川校教授)
千野浩一(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)／吉田幹生(成蹊大学教授)

『論理国語』『文学国語』編集委員会

安藤 宏(東京大学名誉教授)／**紅野謙介**(日本大学名誉教授)
門屋 敦(東大寺学園中・高等学校教諭)／**河野龍也**(東京大学准教授)
五味洸典嗣(早稲田大学教授)／清水良典(文芸評論家・愛知淑徳大学名誉教授)
関口隆一(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)／橘 直弥(灘中学校・高等学校教諭)
仲島ひとみ(武蔵野大学特任教授)／服部徹也(東洋大学准教授)
松田顕子(立教新座中学校・高等学校教諭)／吉田 光(郁文館中学校・高等学校教諭)

『古典探究』編集委員会

高田祐彦(青山学院大学教授)／三上英司(山形大学教授)
東 俊也(武蔵高等学校中学校教諭)／井島正博(東京大学名誉教授)
大橋賢一(北海道教育大学旭川校教授)／小田健太(早稲田大学高等学院教諭)
木下華子(東京大学准教授)／千野浩一(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)
吉田幹生(成蹊大学教授)

「教科書調査の観点」のほか、シラバスなどの資料は、
筑摩書房の教科書サイト「ちくまの教科書」からダウンロードできます。
<https://www.chikumashobo.co.jp/kyoukasho/>



筑摩書房



ちくましょぼう
筑摩書房

〒111-8755 東京都台東区蔵前 2-5-3

●ご注文・見本の請求 営業部／tel. 03(5687)2680
●内容に関するお問い合わせ 編集部／tel. 03(5687)2674